

重要な構成要素「わかば^{えん}園」

建築：大正期

参道の景観を構成する要素

「わかば園」は、茶葉等を販売する木造2階建ての長屋の店舗です。間口3間（約5.4m）の小規模町屋であり、隣接する「園田木彫店」と建築としては一体であることから、「表長屋」タイプに分類されます。建築年代は不詳ですが、建築的な特徴から大正期のものと考えられており、外観からもその時期のものであることがうかがえます。

参道側を開け放し、開放的な軒庇下に商品が陳列され、対面での販売が行われています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、^{ひさし}庇などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。



昭和初期頃